

《基本理念》医学への精進と貢献、病者への献身と奉仕を旨とし、その時代時代になしうる最良の医療を提供すること

2018. 1~2

TORANOMON
VOL. 162

とらのもん

URL : <http://www.toranomon.gr.jp>



本院
公開講座

診療を支える臨床検体検査「検査結果をより深く理解するために」

日時：2018年1月20日（土）14:00~15:30

場所：本院 本館3階 講堂（入場無料）開場13:00

講師：臨床検体検査部 副部長 小池 由佳子



本院
公開講座

日時：2018年3月17日（土）14:00~15:30

場所：本院 本館3階 講堂（入場無料）開場13:00

講師：医療の質・安全対策室 室長 越後 純子

※上記の公開講座は、諸般の事情により、変更・延期・中止になることがございます。お電話・ホームページ等で開催の有無をご確認ください。



お知らせ

ご面会の方へのお願い

市中でインフルエンザが流行しています。発熱、鼻汁、咽頭痛、咳などの症状のある方は、ご面会をお控えください。

外来の予約内容の確認が当院のホームページから出来ます。

何かご不明な点がございましたら、予約センターまでお願いします。

【本院 中央採血室からのお知らせ】

現在、中央採血室がたいへん混雑して御迷惑をおかけしております。

午後の2時以降が比較的空いています。主治医とご相談の上、可能な場合は午後の採血をお勧めいたします。

今月の特集

- 新年のご挨拶（院長）
- 新年のご挨拶（分院長）
- 本院 公開講座
診療を支える臨床検体検査
「検査結果をより深く理解するために」
- 連携医療機関のご紹介
くせいせき内科
- 中瀬浩史先生
（元神経内科部長）より
- 人間ドックの割引



『 謹賀新年 』

新年のご挨拶

院長 大内 尉義

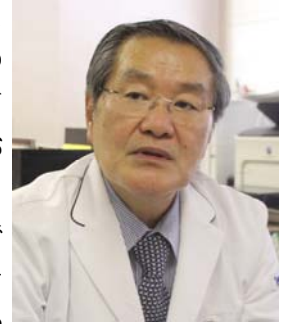
新年あけましておめでとうございます。
お健やかに新年を迎えられたことと、
お慶び申し上げます。

昨年は、北朝鮮問題や相次ぐ欧米でのテロ、中東やアフリカ地域における紛争の拡大など、国際情勢の緊張がこれまでになく高まり、また、わが国におきまして、政局の混乱、年末の大相撲スキャンダルなど、国内外ともに騒然とした一年でした。一方、中学生の将棋棋士・藤井四段の活躍や上野動物園でのジャイアントパンダ・シャンシャンの誕生とその後の順調な成長など、明るいニュースも多い年でした。本年も、皆様方にとって、またわが国にとって明るい、素晴らしい一年になることを願っております。

現在の虎の門病院のもっとも大きなプロジェクトであります新病院建築工事は順調に進んでおり、現在、地下工事がほぼ終了した段階にあります。これから、いよいよ建物が地上に姿を現し、あと急速に立ち上がる予定です。地上19階、地下3階、総延べ床面積87,000平米という、わが国でも有数の大きな病院が、平成31年3月、あと一年ちょっとで完成を迎える予定です。虎の門病院は昭和33年5月に開設されましたが、ちょうど60年が経過し、人間でいうと今年が還暦の年にあたります。その年度内に新しい病院が完成し、その中で最高の新しい医療を実践できることを大変嬉しく存じております。患者の皆様におかれましては、是非、ご支援をよろしくお願いいたします。

虎の門病院のもう一つのトピックスは、昨年10月に、アメリカ大使館前に建てられた「赤坂インターシティAIR（エア）」という名の新しいビルの5階に健康管理センター・画像診断センター（以下、健管センター）が移転し、運用が開始されたことです。以前の健管センターは虎ノ門の駅ビルの中の4フロアを使って運用されていましたが、縦の動線が多く、受診される方々にご不便をおかけしておりました。新しい健管センターは赤坂インターシティAIRの5階の1フロアにすべてが収まり、また最新の医療機器が導入されています。東京メトロ銀座線・

溜池山王駅直結でアクセスも良く、クライアントの方々により快適に受診していただけるものと考えております。



病院の基本は、申すまでもなく、日本最高の医療を安全に提供できることにあります。虎の門病院はこのミッションを果たすべく、内科、外科をはじめとする各領域のスペシャリストを揃え、さらに関連する領域が垣根なく連携し、虎の門病院を受診される患者さんに最高の診療を提供できる体制をとっています。また、このような虎の門病院の高度な医療を、安心して気持ちよく受けていただけるように、引き続き、医療安全と接遇の向上に力を入れてまいります。

本年もよろしくお願い申し上げます。



<新病院 完成イメージ>



<赤坂インターシティAIR外観、新健康管理センター総合受付>

新年のご挨拶

分院長 熊田 博光

2018年明けましておめでとうございます。
本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

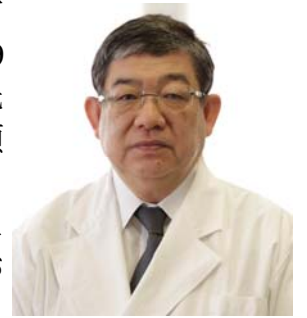
昨年はお陰様で分院は50周年を無事迎えることができました。虎の門病院分院の理念は虎の門病院本院との密なる連携はもとより、高度の専門性を維持しながらも地域医療との連携を重視してまいりました。

平成29年9月現在の診療科は、腎センター・肝臓内科・神経内科・リハビリテーション科・麻酔科・分院外科・感染症部・消化器・糖尿病/代謝・呼吸器・血液内科・循環器・放射線診断科・精神科・整形外科・歯科の16科となっています。

昨年は循環器内科の一層の充実を図ってまいりました。心臓カテーテル治療も多数例行ってきました。また今年の1月から整形外科の喜多島出先生が部長に昇進し整形外科のさらなる躍進を期待しております。国の医療環境の変化により昨年より1病棟を急性期病棟から地域包括病棟に転換して地元の患者さんのニーズに応えられるように配慮してきました。

日本の医療環境は2025年には戦後のベビーブーム世代が高齢化を迎えて膨大な医療費がかかる日が間近に迫っています。さらに平成30年度の診療報酬改訂は急性期病床の7:1の算定基準がさらに厳格化し、全体の医療改定でもマイナス改定となりさらに病院運営は厳しい状況となります。人の一生に山あり、谷ありがあるように人の病気にも良いときもあり、悪いときもあります。そうしたなかで気の持ちようは大切です。病院も単に肉体的に病気を診るだけではなく心の病気も診なければなりません。病院の環境も大切と考えます。幸い虎の門病院分院は自然環境に配慮し、種々の草花の成長にも心を配って参りました。2号棟、3号棟、外来棟の竣工時に植えた樹木が成長し、開院当時から美しかった桜も益々大樹となり、さるすべり、藤、皐月、どんぐり、紅葉など四季の季節の樹木、草花が成長してきました。ふと窓から見える院庭の紅葉は大変美しいものでした。分院の庭は、患者さんも職員も地元の皆さんの心の安らぎの場としても大切にしたいと思えます。

平成20年より高津区・宮前区医師会と連携しすでに9年目を迎えています。地元の先生方との病診連携も順調に進んでいます。今年も益々、地元地域に根付いた病院でありたいと願っております。



東京オリンピックまであと2年となり、思い起こせばオリンピックの開催地は、2008年夏季：中国（北京）、今年は2018年冬季：韓国（平昌）で開催され、アジアの躍進の鼓動が聞こえます。多くの選手が金メダルを目指し、特に体操・レスリング・フィギュアスケートでは日本勢の活躍がありました。長きにわたり意欲と体力を継続させていくためには、重圧を撥ねつけ平静を保てる強靱な精神力がなくては不可能だと思います。オリンピック選手たちの活躍の裏にある日々の鍛錬に思いを馳せた時、医療現場も毎日の積み重ねが大切であろうと思いました。

虎の門病院本院と分院が一体となり医学への精進と貢献、献身と奉仕を旨とし、その時代になしうる最良の医療をご提供できますように本年も鋭意精進いたします。2018年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。



<虎の門病院分院>

診療を支える臨床検体検査「検査結果をより深く理解するために」

臨床検体検査部 副部長 小池 由佳子

1. はじめに

病院に受診した際に、血液や尿の検査を受けた経験はどなたにもあると思います。近年、わが国では疾病発症予防の観点から健診が重視され、2008年4月からは特定健診制度、保健指導が国をあげてスタートしました。人間ドックをお受けいただいている方も多いことと思います。検査室に提出された血液・尿などの検体はその後どうなるのでしょうか。検査結果から読み取れることは何でしょうか。今回の公開講座では虎の門病院本院臨床検体検査部の紹介と、検査結果からわかることを時間の範囲内で述べてみたいと思います。

2. 虎の門病院本院 臨床検体検査部

虎の門病院本院は病床数868床、平成28年の一日平均患者数は入院752名、外来2794名、外来採血者数は平均808名です。付属の健康管理センターの日帰りドックは平成28年で18055名の方にお受けいただいています。提出される検体数の推移をみると概ね右肩上がりが増加傾向です。これらの検査を担う臨床検査技師は国家資格であり、本院臨床検体検査部には2017年4月の時点で約40名の技師が在籍しています。中央採血科、検体受付管理科、化学分析科、血液凝固検査科、一般検査科、イムノアッセイ検査科、緊急検査科、情報処理科の8検査科で構成され、夜間緊急検査も含めて365日24時間体制で検査を実施しています。高水準の診療に対応するため、正確かつ迅速に検査を行えるように、外部精度管理に参加するとともに日々の内部精度管理にも気を配っています。



(図1) 外部精度管理

臨床検体検査部 副部長

小池 由佳子 昭和62年卒



《専門分野》

・臨床検査医学

《資格・所属学会等》

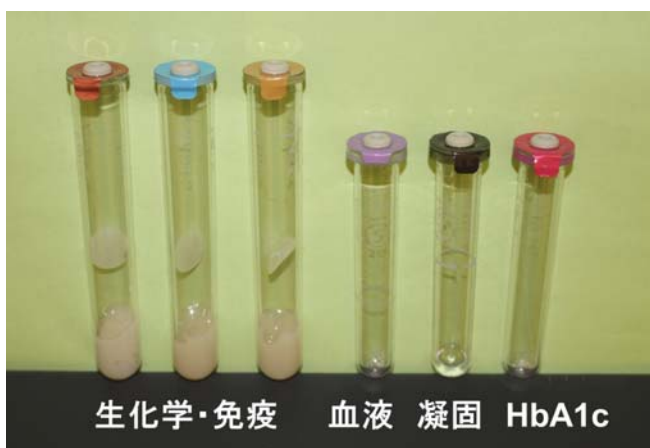
- ・日本臨床検査医学会 臨床検査専門医、臨床検査管理医
- ・日本検査血液学会 評議員
- ・日本内科学会 認定内科医、総合内科専門医
- ・日本サイトメトリー学会 評議員、認定サイトメトリー技術者
- ・日本血液学会
- ・日本人間ドック学会

3. 検体検査からわかること

検査値の見方、考え方

－健診項目にある検査を中心に－

検体検査は採取した血液・尿・喀痰・擦過物・便・髄液などの検体を分析する検査です。例えば血液の場合、中央採血室で採血する静脈血は、検査する項目数にもよりますが概ね10～20ml程度で、数本の採血管に分注して各検査室に運びます。各検査科における測定の様子は公開講座当日にお話しします。血液凝固検査科では血算や凝固の採血管を扱い、主に白血球数、血液像、赤血球数、血小板数などの骨髓で造られる血球と血液凝固すなわち止血に関連する検査値を測定します。白血球は病原微生物などから体を守るための免疫機構の主役となる血球で、例えば細菌感染症などの炎症が起きると白血球のうち好中球が増加します。急性白血病などの血液疾患では、通常骨髓に存在する幼若な芽球が末梢血で増加することがあります。赤血球、ヘモグロビン、ヘマトクリットからは、貧血の有無やその病態の推測、多血症の有無を確認します。血小板は止血に関与する細胞で、数の低下は出血傾向の原因となります。化学分析科では生化学採血管に分注した静脈血を遠心し、得られた血清を用いて肝機能、腎機能に関連する項目、血糖、コレステロールや中性脂肪などの脂質、尿酸値などを測定します。健診を受ける目的の一つは、自分の健康状態を知り、改善へとつながって疾病の発症を未然に予防することです。糖代謝異常、脂質代謝異常の有無を早い段階でみつけ、生活習慣を改善することで動脈硬化を予防し、脳血管疾患や虚血性心疾患などの発症を抑えることが重要です。



(図2) 主な採血管

検査結果を見るときに指標になるのが基準となる数値です。基準範囲とは基準個体から得た測定値（基準値）の中央95%の区間（範囲）のことであり、検査値の目安（ものさし）といえるかもしれませんが、基準範囲は受診した施設によって異なることがあります。このあたりの詳しいことや臨床判断値（病態識別値）についても当日お話しします。

腫瘍マーカーはがんとの関連で皆様の関心が高い検査項目の一つですが、小さながんの早期発見のためのスクリーニング検査としてはあまり期待できない場合もあり、幾つかの腫瘍マーカーの有用性やがん以外で高値となる場合などについて講座の中でお話しします。

4. これからの臨床検体検査

検体検査はここ数十年の間に著しく進歩し、科学技術革新により新たな解析手法が導入されてきましたが、その最たるものの一つが遺伝子解析技術を用いた遺伝子関連検査といえるでしょう。また、がん細胞から分泌されるマイクロRNA（miRNA）測定により、がんの早期発見を目指す研究も進行しています。これからの検体検査に関することも公開講座の最後に少し触れてみたいと思います。

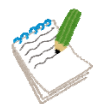
～詳しくは公開講座へ～ 虎の門病院 本院公開講座

日時：1月20日（土）14時～15時30分
場所：虎の門病院本院 本館3階講堂

虎の門病院では定期的に一般の方向けの公開講座を開催しています。

どなたでも（虎の門病院を受診していない方でも）ご参加いただけます。

講師は虎の門病院所属の医師が担当し、講演後には質問もお受けいたします。



申し込み不要・入場無料、皆さまのご参加をお待ちしております。

虎の門病院 公開講座

検索



公開講座はDVD化しています。



DVDは本館8階にある患者図書室で入院患者さんを対象に1泊2日でレンタルしています。外来患者さんは、図書室内でご覧になることができます。（イヤホンをご持参ください）。



講座当日にお越しになれない方、過去のあの回をもう1度見たいという方、ぜひDVDをご活用ください！

※また、当院のホームページに、過去の公開講座の動画の一部を掲載しております。



これまで私は、灘中学、灘高校から東京大学医学部を卒業後、慶應義塾大学医学部特任准教授、東京医科歯科大学医学部教授などを歴任してまいりました。また、日本内分泌学会評議員、日本骨粗鬆症学会評議員として、学会でも中心的に活動をすすめております。これらの豊富な経験と実績をもとに、2016年、聖蹟桜ヶ丘駅前にせいせき内科を開業いたしました。糖尿病専門医、内分泌代謝科専門医、総合内科専門医と多数の専門医資格に裏付けされた、地域住民の皆様に信頼される温もりある質の高い医療医療を提供します。患者様の不安、疑問を出来る限り取り除き、スタッフ一同さわやかな笑顔でお迎えいたします。

●ドクター紹介



院長 竹田 秀
(たけだ しゅう)

＜資格＞

日本内科学会認定医・総合内科専門医
日本糖尿病学会認定専門医
日本内分泌学会認定専門医・指導医

＜経歴＞

平成4年

東京大学医学部卒

平成21年ー平成25年

慶應義塾大学医学部腎臓内分泌代謝内科 特任准教授

平成25年ー平成28年

東京医科歯科大学医学部 教授

平成28年ー現在

せいせき内科 院長

虎の門病院内分泌代謝科（併任）

【診療時間】 ご予約お待ちしております。（完全予約制）

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
10:00～13:00	—	○	○	○	○	○	○
15:00～19:00	—	○	○	—	○	○	○

※ 受付時間は診療終了時間の30分前までとなります。

※ 16歳未満の方は他院の小児科の受診をお願いします。

【休診日】 月曜日・木曜午後・祝日

【持ち物】 保険証、紹介状（他院から転院される際に紹介状がある方のみ）、お薬手帳

【アクセス】 京王線 聖蹟桜ヶ丘駅 徒歩3分



【診療科目】

糖尿病・代謝内科、甲状腺・内分泌内科、総合内科

【院内写真】



（外観）



（受付）



（待合スペース）



（診察室）

せいせき内科

■〒206-0011

多摩市関戸2-39-12桜ヶ丘NKビル 1F

■電話 042-371-1177

■URL <http://seiseki-naika.com/>

医師の働き方改革

虎の門病院 元神経内科部長

大森赤十字病院 院長 中瀬 浩史

今、多くの病院では医師の働き方改革でゆれています。トラックなどの運転手さんや建築に携わっている方々とともに、医師の長時間労働が問題となっています。働き方改革の名の下に医師の時間外労働時間を一律に制限しようとしています。しかし今の医療体制は医師の長時間勤務が前提となっていて、働き方改革の名の下に医師の時間外労働時間を一律に制限しようとしています。しかし今の医療体制は医師の長時間勤務が前提となっていて、働き方改革の名の下に医師の時間外労働時間を一律に制限しようとしています。

入院患者さんがいらっしゃる限り病院には医師・看護師をはじめとして様々な医療スタッフが常時待機しています。看護師をはじめとする多くのスタッフは交替制勤務という形で働いています。長時間の残業や精神的な負担は大きいもののやりがいのある仕事として頑張っています。ところがほとんどの医師は交替制勤務ではないため、理屈の上では24時間365日、主治医としての責任から解放されることはありません。夜間休日の負担軽減を図っていますが、十分とはいえません。いつ病状が変化するかも知れず、患者さんの急変時に主治医が全く関与しないでいられるのでしょうか？

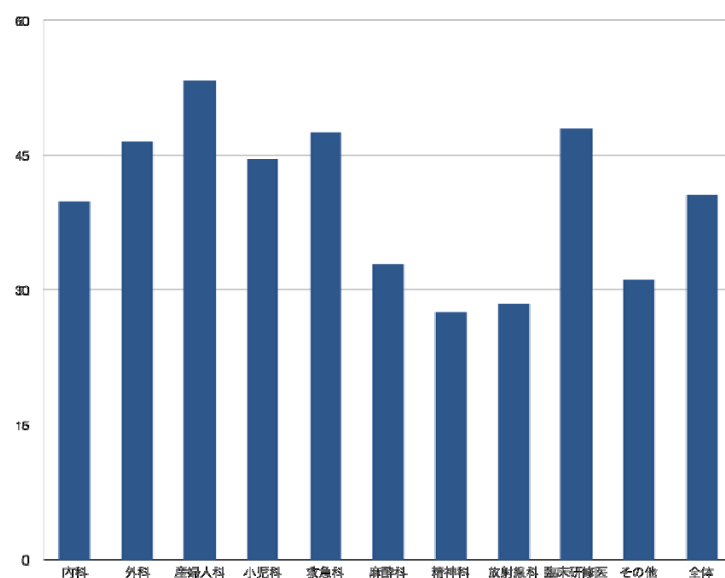
私が医師として働き始めた頃は「24時間働けますか？」というコマーシャルが流れ、一般の会社でも長時間労働が当たり前でした。医師も月に200時間以上の超過勤務はしていましたが、出勤簿に一日1回印鑑を押すだけで、時間管理は医師の裁量に任されていました。診療の合間も医学文献にあたってどんな治療が良いか検討を重ね、直接携わっていなくても長時間の手術を見ているだけで勉強になったものです。診療ばかりでなく、自己研鑽の時間として深夜まで病院内で勤務していました。

今は時代が変わり、若い世代の医師は時間の使い方に敏感になり、不必要に職場には居なくなりました。さらに女性医師の増加がこの変化に関係しています。医学部卒業者の3～4割は女性で、多様な働き方、ワーク・ライフバランスが重要になってきています。ライフステージに合わせた働き方を確立する必要があります。そのため今までのように主治医一人が責任を持って、24時間対応することは困難です。チームを作って分担することが基本ですが、夜間休日の初期治療は病院全体として夜勤をしているチームが担当します。初期対応を行った後に適切な時点で主治医が治療を引き継ぐことが想定されます。

しかし医師不足のこの時代にすべての病院でそれだけの夜勤担当の医師が集まるのでしょうか。月に4回夜勤をすればそれだけで時間外勤務時間は60時間近くなります。午後遅くに来院した患者さんの診療は当然時間外勤務になります。育児のために時間短縮されている医師も増えてきて、夜勤をこなせる医師の総数は逆に減少しています。また心臓血管外科をはじめとして専門性の高い分野では主治医が呼び出されることが多くなりますので、そのような診療科の先生の負担軽減にはならない可能性があります。患者さんやご家族の立場を考えると急変時に主治医がいないのはとても不安が強いと思います。しかしチーム医療で対応することは必須のことですので、是非ともご理解をいただきたいと思います。

医療の質を落とすことなく医師の働き方改革を実行するには多くの知恵と皆さんの理解が必要です。来年度末までに厚生労働省の検討会で大きな方向性が出てきます。どこまで可能なのか、人命がかかっていますから、皆さんも議論の行方に注目していただきたいと思います。

割合 (%)



(図) 週当たり勤務時間60時間以上の病院常勤医師の診療科別割合

診療時間・診療外時間・院内待機時間の合計
(平成28年度厚生労働省調査による)



昨年10月移転しました。今年も2018年2月より、期間限定で人間ドックの割引をいたします。

(ペア割引料金：税込)

☆インターネット予約ペア割引

お二人そろえば、もっとお得。
ご夫婦・ご兄弟・ご友人等どなたとでもどうぞ。

対象受診期間：2018年2月1日～4月27日

対象者：インターネットから「2名様同時予約」で
ご予約された人間ドック

胃バリウム/胃内視鏡/胃検査無のコース受診者
料 金：通常のコース料金より10%引き

2月1日～4月27日		通常のコース料金より10%引き	
通常料金			
胃内視鏡	胃バリウム	胃検査なし	
78,840円	74,520円	59,400円	
↓		10%引	
胃内視鏡	胃バリウム	胃検査なし	
70,956円	67,068円	53,460円	

※ インターネットからお申し込みいただいた方のみ、ペア割引適用となります。

※ お二人同日受診が条件です。キャンセル・変更等で同日受診でなくなった場合は、通常料金となります。

※ 共済組合員・ご契約団体の方は対象外です。その他各健保組合の割引助成制度との併用は出来ません。

※ オプション検査は割引対象外です。※ 先着順で予約がいっぱいになり次第終了とさせていただきます。

※ インターネットで3名様お申し込みの場合は2名様「ペア割引」、1名様「通常料金」となります。

人間ドック受診のすすめ

①疾病予防、健康増進 ②早期発見、早期治療 ③疾病の再発予防を目的としています。健康な方、通院されている方問わず、皆さまに人間ドック受診をおすすめします。

当センターの特徴

人間ドック受診は、最新機器(CT・MRI・PET/CT)がそろい、各専門分野のスタッフが対応する当センターをご利用ください。

受診後のアフターケアは、虎の門病院で行います。人間ドックの受診から治療まで、虎の門病院と一体化して提供しています。



健康管理センター・画像診断センターの受付は、銀座線溜池山王駅9番出口から徒歩3分の赤坂インターシティAIR5階にあります。

▼人間ドックのご予約はこちらから

TEL 03-3560-7777

WEB

虎の門病院 人間ドック

検索

<http://www.toranomon-dock.jp/>

スマートフォンの方は
こちらから



平日 11:00～16:30 (土・日・祝日は休み)

WEBに各検査の詳細や、地図を掲載しています。

病院内窓口

(本院) 本館1階 総合相談センター内 人間ドック申込窓口 / (分院) 外来棟1階 分院医事課

がん相談窓口(がん相談支援センター)のご案内

- 相談時間 月曜日～金曜日 9:00～16:00
* 土・日・祝日・年末年始・開院記念日(5/20)を除く
- 場所 虎の門病院本院 本館1階総合相談センター内
- 相談料 無料
- 対象 がんの患者さん・ご家族等
- 相談方法 電話相談・面接相談(面接相談 要予約)

相談電話番号・お問い合わせ先 03-3588-1171

当院でセカンドオピニオンの提供を受けたい方へ

他の病院におかかりの患者さんで、ご自分の病状や治療方針について現在おかかりの医師以外の意見をお求めの方へ対し、当院各科専門医(部長・医長クラス)による特別相談をお受けしております。(完全予約制、紹介状必要)

(料金) 30分：21,600円(延長15分毎：10,800円追加)

(担当) 本院医療連携部 03-3588-1111 内線4106

分院医療連携部 044-877-5111 内線5141